

大阪府にハイノキは産しない

藤井俊夫

ハイノキは、従来近畿地方（兵庫県西光寺山、大阪府和泉）および岡山県の一部、四国、九州に分布するとされていた（Nagamasu, 1993）。1993年ごろから、近畿地方の絶滅危惧植物の目録を作ろうと、有志が集まって会合を持ち、その成果は「近畿地方の保護上重要な植物—レッドデータブック近畿—」（レッドデータブック近畿研究会編, 1995）としてまとめられた。この時に現状不明や情報不足で、保留扱いになった植物が多数ある。そのうちのひとつがハイノキであるが、Nagamasu (1993) には国立科学博物館 (TNS) の標本を引用して、大阪府和泉の産地が挙げられ、分布図にも泉州地方に印が打たれている。ハイノキは近畿地方では、和歌山や三重などの南部山地に限られ、隔離的に兵庫県西光寺山、岡山県の2地点でのみ知られており、筆者は当時から大阪の産地について疑問を持っていた。Nagamasu (1993) には引用標本のラベルの表記が「Izumi, Nanokawa:元ラベルの表記は和泉名ノ川」とされていたことを根拠に大阪府に産するとしたようである。大阪での標本記録が科博の標本一点しかなく、近畿版RDBでは情報不足として載せるのを見合わせたことがある。その後、改訂版の「改訂・近畿地方の保護上重要な植物—レッドデータブック近畿2001—」、大阪府のレッドデータブック(大阪府農林水産部, 2000)でも新しい情報が入手できなかったため、掲載を見合わせていた(大阪府版では情報不足とした)。

2007年に永益氏が国立科学博物館(科博)で

ハイノキの標本を検討し、ラベルの写真まで送ってもらい、ラベルに明治二十九年五月七日、採集者：松田定久と書かれているのを確認し、大阪府産でまちがいないと思っていた。永益氏によると「松田定久氏は、この標本を採集する前年の明治28年(1895)に大阪府堺市の府立学校教諭となっている」とのコメントまで送られた返信が送られてきた。これで、大阪にもハイノキが産するのだろうと考えていた。

松田定久氏は帝国大学理科大学植物科矢田部教授、松村任三(助教授)、大久保三郎(助教授)の指導を受け、特に松村助教授の指導のもとに植物分類学を専攻した。大学卒業後の1895年、大阪府第二尋常中学校(現在の三国ヶ丘高校)の教頭として赴任。精力的に植物標本収集を行った。

ところが、最近のインターネットの発達と情報公開や検索機能の充実によって、国立科学博物館の一部の植物標本が閲覧できるようになってきた。そこで2012年に科博の標本を採集者名で検索してみた。すると1896年5月8日に高知県名野川村でヒナスゲを採集していることが分かった(科博登録番号32770)この標本のラベルは「東京科学博物館」の表記があり、採集地は土佐名野川と正確に書かれている。標本画像もついていたので、拡大してよく見たところ、「東京皇室博物館」のラベルに採集者：松田定久、その下に小さく「和泉名ノ川」、「明治二十九年五月八日」と書かれていた。ラベルが「東京皇室博物館」となっていることから、採集地、年

月日、採集者は、松田定久の直筆ではない可能性が高まった。科博の標本では、ラベルの表記「和泉名ノ川」を「高知県吾川郡仁淀川村」としている。

Nanokawa(名ノ川)という地名は大阪府には見当たらず、インターネットなどで探すと高知県の鳥形山周辺で泉、(国道439号線から鳥形山へ分岐する周辺)、鳥形山から北へ10kmほど国道を行ったところに、名野川という地名(仁淀川町役場名野川出張所、名野川小学校など)が見られた。また泉という地名も鳥形山のふもとで見つかった。泉から名野川までは直線距離で、10kmもなく、植物採集をしながら移動できる距離だと考えられる。そこで、同時に採集したと思われるヒナスゲの分布を調べることにした。村田原著「近畿地方植物誌」(村田, 1994)には、ヒナスゲの産地として、(兵)小金岳、笠形山、三岳、千種町、(京)龍ヶ岳、比叡山、(奈)大普賢岳、太古辻、釈迦岳、(三)鎌ヶ岳、御在所岳、美杉村と記載され、大阪には分布しないことが分かった。また大阪府植物目録(桑島, 1990)でも大阪府に産しないことを確認した。これらのことから、ハイノキと大阪府に分布するはずのないヒナスゲを同時に採集していることから、泉～名野川のハイノキは、高知県での採集標本であると考えられる。

科博のデータベースから高知県産のヒナスゲの他の標本を検索すると1点がヒットした。松田定久採集と同じ、同年同月同日、渡邊協(わたなべ かのう:かなえ)採集の標本が含まれていた(科博登録番号63854)。渡邊氏は、ワタナベソウの発見者として、有名である。渡邊氏は名野川周辺で1896年5月1日から23日にかけて、植物採集を行っていた。科博標本の画像から、5月5日には、伊藤篤太郎(いとう とくたろう)が同行してオオツクバネウツギを採

集していることが分かった。伊藤篤太郎(1866-1941)は伊藤圭介の孫で、明治から昭和にかけて活躍した植物学者で、1896年当時は、鹿児島高等中学校造士館の教授であった。以上のことから、大阪府にはハイノキは分布せず、不十分なラベルの読み違いによる誤認の可能性が濃厚である。

近畿地方でのハイノキの分布は和歌山県西牟婁郡大塔村富里安川の支流(北の谷川:K.Seto 33775 [OSA])および兵庫県西脇市西光寺山(H.Muroi 100062 [TNS])の2地点の標本がある。三重県は科博の標本データベースで検索したところ、萩庭丈壽が、尾鷲市で採集した標本が2点あった。西光寺山の標本は1990年代になって多数採集されていた。

国立科学博物館の標本から辿った、渡邊協氏の名野川での採集植物(1896年)

採集月日、植物、採集者(科博登録番号、画像の有無、ラベル題字表記)の順に記載

1896年

5月1日(金)コバンノキ渡邊協(61874画像あり:東京科学博物館)、シコクチャルメルソウ渡邊協(62073画像あり:東京科学博物館)

5月2日(土)ナガバジュズネノキ渡邊協(61235画像あり:東京科学博物館)

5月5日(火)イチリンソウ渡邊協(305791画像なし)、イチリンソウ渡邊協(62212画像なし)、コツクバネウツギ渡邊協(396437画像あり、Watanabeラベル)、オオツクバネウツギ渡邊協(53248画像あり:Watanabeラベル、東京科学博物館)、オオツクバネウツギ渡邊協(61207画像あり:東京科学博物館)、オオツクバネウツギ伊藤篤太郎(396436画像あり:国立科学博物館)、クマガイソウ渡邊協(54281画像なし)、ヤマトグサ採集者不明(32538画像あり)

り：東京皇室博物館)
5月7日(木) ナベワリ渡邊協(62761画像あり：東京科学博物館), ナルコスゲ渡邊協(62847画像あり：東京科学博物館)
5月8日(金) マルバコンロンソウ渡邊協(62132画像あり：東京科学博物館), トサノミツバツツジ渡邊協(61597画像あり：東京科学博物館), ヒナスゲ松田定久(32770画像あり：東京皇室博物館), ヒナスゲ渡邊協(62854画像あり：東京科学博物館)
5月11日(月) マルバウツギ渡邊協(53994画像あり, Watanabeラベル：東京科学博物館)
5月12日(火) ヤマシャクヤク渡邊協(62290画像なし), ナルコスゲ渡邊協(62842画像あり：東京科学博物館)
5月14日(木) ガクウツギ渡邊協(62060画像なし), ガクウツギ渡邊協(53990画像なし), キブシ渡邊協(53659画像あり, Watanabeラベル：東京科学博物館), アサギズメノヒエ採集者不明(32716画像あり：東京皇室博物館), キブシ渡邊協(53659画像ありWatanabeラベル：東京科学博物館)
5月17日(日) コバノヒノキシダ渡邊協(63189画像なし), ジュウモンジシダ渡邊協(63358画像あり：伊藤篤太郎ラベル：東京科学博物館)
5月19日(火) カイナンサラサドウダン渡邊協(53543画像なし) カイナンサラサドウダン渡邊協(61566画像なし), ナガバヤブソテツ渡邊協(63355画像あり：東京科学博物館)
5月20日(水) トチノキ(61806画像あり：伊藤篤太郎ラベル：東京科学博物館)
5月23日(土) サワルリソウ渡邊協(71486画像あり：東京科学博物館)

国立科学博物館の年譜

1875年, 東京博物館として設立
1889年, 帝国博物館へ標本を移譲 32000台の標本：ヤマトグサ(採集者不明), ヒナスゲ(松田定久), アサギズメノヒエ(採集者不明)
1931年, 東京科学博物館に改称 53000から72000台の標本(名野川の他の採集標本)
1949年, 国立科学博物館に改称 オオツクバネウツギ(伊藤篤太郎), イチリンソウ(渡邊協), ツクバネウツギ(渡邊協)

近畿地方産のハイノキ証拠標本

兵庫県：西光寺山 11 May. 1997, T.Koyabashi 30389 (HYO); 西光寺山7 May, 1997, T.Fujii 7645 (HYO); 西光寺山26 Oct. 1997, T.Fujii 9140 (HYO). 和歌山県：大塔村富里安川の支流(北ノ谷川) 7 Aug. 1988, K.Seto (OSA). 三重県：尾鷲市 2 Jun. 1963 J.Haginiwa 37174 (TNS); 尾鷲市29 Jun. 1963, J.Haginiwa 11293 (TNS).
科博標本資料統合データベース (<http://db.kahaku.go.jp/webmuseum>; 2013年2月5日参照)

引用文献

桑島正二. 1990. 大阪府植物目録. 197p. 近畿植物同好会. 大阪.
Nagamasu, H. 1993. The Symplocaceae of Japan; Contr. Boil. Lab. Kyoto Univ. ; 28 (2); 173-260.
村田源. 1994. 近畿地方植物誌35. 近畿植物同好会会誌. 17: 21-24. 近畿植物同好会. 大阪.
大阪府農林水産部. 2000. 大阪府における保護

上重要な野生生物—大阪府レッドデータブック—.
レッドデータブック近畿研究会(編). 1995. 近畿地方の保護上重要な植物—レッドデータブック近畿—. 121p. 関西自然保護機構. 大阪.
レッドデータブック近畿研究会(編). 2001. 改訂・近畿地方の保護上重要な植物—レッドデータブック近畿2001—. 163p. (財)平岡環境科学研究所. 神奈川.

参照ホームページ

<http://ja.wikipedia.org/wiki/>
国立科学博物館(設立の歴史)
<http://db.kahaku.go.jp/webmuseum/>
科博標本・資料統合データベース
http://www.um.u-tokyo.ac.jp/publish_db/1996Koishikawa300/index.html
日本植物研究の歴史・小石川植物園300年の歩み
<http://kotobank.jp/word/>
コトバンク 伊藤篤太郎(いとう とくたろう)

ワタナベソウ(渡辺草)

奈良県, 四国, 九州のごく一部の深山の林内に

生える希な多年草。明治30年ごろ高知県吾川郡上名野川村名野川小学校に校長として赴任していた渡邊協(諧)(わたなべ かなえ：かのう)氏が採集し, 矢田部教授が渡邊氏を記念して命名した。本州中北部に分布するヤワタソウの変種とされることもあったが, 現在は独立種として扱われている。

松田定久氏採集標本(TNSの標本データベースより)

サイコクヌカボ(TNS-VS-19357:大阪府堺市 5 Oct. 1894)
コイヌガラシ(TNS-VS-32468:大阪府堺市 13 May. 1895)
イワレンゲ(TNS-VS-32418:大阪府堺市 4 Nov. 1895)
ヒナスゲ(TNS-VS-32770:高知県吾川郡名野川村 8 May. 1896画像あり)
ヒナラン(TNS-VS-32633:大阪府和泉市 14 Jun. 1896)
ハイノキ(TNS-VS-32085:高知県吾川郡名野川村 7 May. 1896)